



平成21年(2009年)3月
発行
広島市教育委員会
青少年育成部育成課
(☎242-2013)

ひろしま 青少協だより

毎月第三日曜日は
家庭の日

毎月22日は
子ども安全の日

毎月17日は
青少年の日

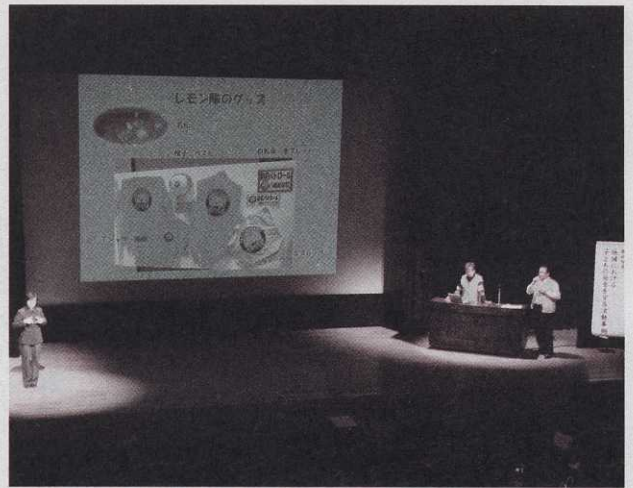
第22回広島市青少年 健全育成市民大会

第22回広島市青少年健全育成市民大会は、11月22日(土)午後、各地区の青少協役員や青少年指導者、学校関係者など約六百人の市民が参加し、広島市青少年センターホールで盛大に開催されました。

この市民大会は、市民総ぐるみの青少年健全育成活動を推進するとともに、市民意識の啓発を図ることを目的として、実施しています。

開会に先立ち、この日が、平成17年に安芸区において、下校途中に命を奪われた木下あいりさんの命日であることから、参加者全員で黙祷を捧げました。

主催者挨拶、来賓祝辞に続き、長年にわたり青少年健全育成に功労のあった方々や団体に、市長より表彰状が手渡されました。続いて、「青少年からのメッセージ」入選



者の表彰式が行われました。「青少年からのメッセージ」については関連記事を次ページに掲載しています。

事例発表と講演

事例発表では、「地域における子どもの安全を守る活動事例」というテーマで、次の四地区からそれぞれの取り組みの発表がありました。

東区・戸坂地区「戸坂連合おやじの会「へさか村」の誕生のいきさつと使命」

西区・井口台地区「子どもたちの安全・安心はまちぐるみで」

安佐北区・日浦地区「地域ぐるみみのっ日浦子どもわくわく体験スクールを通して」

佐伯区・八幡東地区「安全・見守り活動における自主財源確保のための地域支援型自販機システム導入事例」

参加者から「自分たちの地区での今後の

取組の参考になった」「自分たちの地域でも取り入れたい」といった声が多く寄せられました。

最後に、元広島県警察本部長で、現在「おやじ日本」会長の竹花豊(たけはなゆたか)さんより「青少年問題と大人の責任」というテーマで講演をしていただきました。

竹花さんは、暴走族問題に関わる中で、大人の本気・真剣が必要であることを痛感され、子どもを有害な情報から守ることや、様々な危険から守ることは、社会全体の課題であるとともに大人の責任であり、その課題解決のためには、大人の真剣さが必要であることを語られました。

参加者から「これまでの自分を考え直すきっかけになった」「真剣に関わっていくこと、本気で考えることの必要性を痛感した」といった声が寄せられました。



竹花 豊さん

この市民大会は、多くの参加者にとって、青少年育成のあり方を今一度、考えさせられる場となったとともに、「地域の子どもを地域で育て、地域で守る」ことを再認識できる場となったのではないのでしょうか。

当日、表彰された方々は次のとおりです。

《広島市青少年健全育成成功労者等

市長表彰》

模範活動団体

広島尚武会スポーツ少年団
養心館スポーツ少年団
上温品和太鼓クラブ

広島市南錬成会スポーツ少年団
鈴が峰レッズスポーツ少年団
広島三篠剣道スポーツ少年団
上安少年野球クラブスポーツ少年団
河内少年軟式野球クラブスポーツ少年団

模範青少年

東 区 下西 慧

青少年健全育成成功労者

【青少年健全育成連絡協議会】

南 区 岩佐 清
佐伯区 石田 邦夫・矢野 喜生

【子ども会】

南 区 庄子 佳良・住田 健治
西 区 松尾 義章
安佐南区 神谷 恵司
安佐北区 蔵田 将

【子ども会育成指導員】

中 区 山野 進
南 区 新本 孝美・住田 由美子
西 区 高見 英治

西 区 土居 祐子・村田 和子
佐伯区 鶴田 和雄

【地域活動連絡協議会(母親クラブ)】

安佐北区 原田 房尾

【スポーツ少年団指導者】

南 区 吉川 光司・山崎 啓子
安佐南区 坪井 裕之

【日本ボーイスカウト広島県連盟】

安芸区 福島 達暁

【ガールスカウト日本連盟広島県支部】

安佐北区 山本 初枝

【青少年指導員】

中 区 伊藤 剛・田中 利子
富樫 数吉・土岸 法子

内藤 和則・番匠 和子
柳澤 シズコ

東 区 重川 美代子
南 区 片平 正廣・川野 克彦

川本 浩明・桑原 光代
中島 徳男

西 区 青木 成夫・大鴻 和美
鍛冶山 正照・木村 年宏

安佐南区 齊藤 和幸・二國 かつみ
松田 良春

伊藤 清子・岩本 順郎
上寺 節子・河野 重徳

足門 邦治・段原 克彦
宮原 勝三・元村 正

山田 仁恵・吉田 芳和
岡田 弘・角谷 和子

安佐北区 金永 裕人・竹本 政博
中野 悟・橋本 あさ子

平本 光由・藤井 良子
三川 明美・山川 義昭

澤田 さちゑ・花崎 武敏
安芸区 恵島 義之・道田 正治

佐伯区 山根 清昭

《広島市青少年健全育成連絡協議会

会長表彰》

【地区(学区)青少年健全育成

連絡協議会 会長】

中 区 岸本 嘉生

東 区 新 時高

南 区 田邊 孝弘・本井 重辰
西 区 有田 晴好・瀬崎 雅史

安佐南区 内藤 邦夫・安井 牧
西 徳雄

【地区(学区)青少年健全育成

連絡協議会 役員】

中 区 番匠 和子

南 区 倉田 俊和

安佐南区 荒川 多美子・加藤 良夫
川本 一夫・堀越 隆江
宮崎 裕也

左記の表彰者を併せてご紹介いたします。

平成20年度青少年健全育成国民会議会長表彰

広島市青少協理事 石井 健一郎

表彰をお受けになられた皆様、
おめでとうございます。

青少年からのメッセージ

「私とテレビ」「私とテレビゲーム」「私とインターネット」「私とケータイ」をテーマに、作文と漫画を募集しました。

五〇三〇点の応募があり、審査の結果、各部門で入選者の方を決定しました。

市民大会では、入選者の皆さんの表彰が

行われました。

入選作品を含む68作品を掲載したメッセージ集を、図書館や学校などに配付していますので、是非お読みください。

入選された皆様は、次のとおりです。
また、一席に選ばれた4作品を紹介し

【作文部門】

《小学生の部》 応募総数 884点

一席 井口小学校6年 平山 貴大

二席 向洋新町小学校5年 藤本 露佳

佳作 楽々園小学校6年 長谷川直人

佳作 鈴が峰小学校6年 松村 未緒

《中学生の部》 応募総数 3,353点

一席 安佐北中学校2年 佐野 彩華

二席 祇園東中学校3年 川添 由花

佳作 江波中学校3年 佐伯 香奈

佳作 安佐北中学校3年 佐々木遥夏

《高校生・一般の部》 応募総数 670点

一席 広島皆実高等学校3年 西村 彩夏

二席 美鈴が丘高等学校2年 御厨 麻衣

佳作 美鈴が丘高等学校2年 清川 良樹

佳作 沼田高等学校1年 豊島ゆきえ

【漫画部門】 応募総数 123点

一席 比治山小学校6年 久保田新菜

二席 矢野西小学校5年 井口 瑞月

佳作 古田小学校5年 松村 瞳

佳作 鈴が峰小学校5年 村河 彩

【敬称略】

【作文部門】

小学生の部 一席

『ゲームの野球より空の下で野球を』

井口小学校6年 平山 貴大

時々ゲームをすると楽しい。でもぼくは外で友達と野球などをして遊ぶ方がもっと楽しい。友達と力を合わせて何かをしたり笑い合ったり体を思い切り動かすと気分がスッキリする。ゲームばかりしているとよくないことが三つあると思います。まず一人で家の中で過ごす事が多くなり人と接するのが苦手になります。次に目が悪くなって運動もしくくなります。さらにゲーム脳になり事件が増えるかもしれません。ぼくは時間を決めて楽しんでます。それでも十分に満足出来るのでオススメです。

中学生の部 一席

『私とテレビ』

安佐北中学校2年 佐野 彩華

私の家族は一週間に一回テレビを見ない日を決めました。木曜日に見ない事にしました。最初の日は、朝などニュースが見られなくて困りましたが、夜は、ゆつくりと家族と話す時間ができてよかったです。一か月試してみても、だんだんとなれてきました。試行期間を終えて考えてみると、試してみた事に後悔はしていません。なぜなら、久しぶりに学校で今日あったうれしかった事や悲しかった事などを話すことができたからです。うれしかったことを話すところまでくれて、私も、とてもいい気分になりました。

分になりました。

高校生・一般の部 一席

『私とケータイ』

広島皆実高等学校3年 西村 彩夏

私はつい最近まで「ケータイ依存症」かもしれないと思っていました。家の中でもポケットに携帯電話を入れて持ち歩いているほどケータイを常に手元に置いていました。でも、一週間ほど前、高校に入学してから初めて、学校にケータイを忘れて帰ってしまいました。その日、あれ程ケータイを使っていた私ですが、とても落ち着いて、しかもいつもより勉強に集中できたような気さえしました。その日を境にケータイに対する意識が変わりました。今では「あれば便利だけど、なくても生活できるもの」だと思っています。

【漫画部門 一席】

『ネットもいいけれど…』

比治山小学校6年 久保田 新菜

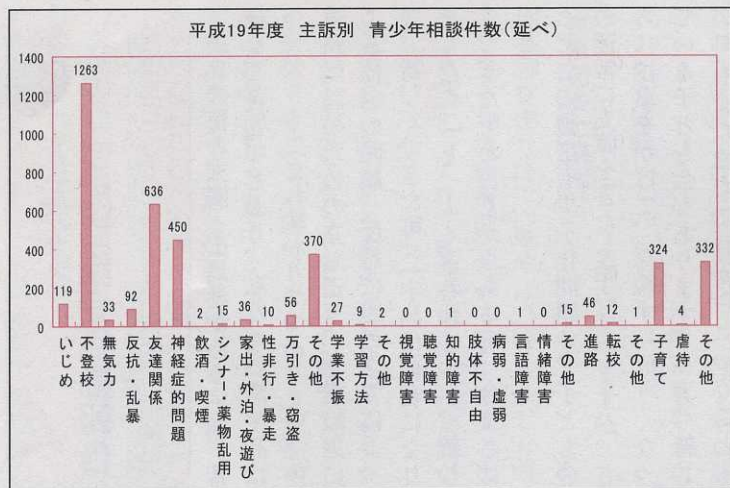
インターネットはとても楽しいけれど、それだけでは機械相手なので、やはり友達と話す方が楽しいと思います。



青少年総合相談センター

青少年総合相談センターでは、幼児期から思春期、そして青年期までの心理や行動の問題、また発達の課題など、あらゆる相談に専門のカウンセラー（青少年教育相談員、臨床心理士・精神科医）が、相談に応じています。

左のグラフは、平成十九年度に青少年総合相談センターで行った相談の主訴別相談件数です。相談内容は不登校に関する相談が最も多く、全相談件数の約三十三%となっています。次いで友達関係、チック、情緒不安などの神経症の問題、子育て、いじめの順となっています。



<p>青少年相談</p> <p>電話 (082) 242-2117</p> <p>・不登校、先生・友達関係、学習、進路、しつけ、思春期の悩み事など</p>	<p>【相談時間】 月～土 9:00～17:00</p>
<p>いじめ110番</p> <p>電話 (082) 242-2110</p>	<p>【相談時間】 24時間 いつでも</p>
<p>障害のある子どもについての就学・教育相談</p> <p>電話 (082) 504-2197</p> <p>※障害のある子どもの相談は、分室(東区光町のこども療育センター内)でも行っています。</p> <p>電話(082) 264-0422(分室)</p>	<p>【相談時間】 月～金 9:00～17:00</p>
<p>暴走族加入防止・離脱相談</p> <p>電話 (082) 242-7867</p>	<p>【相談時間】 月～金 10:00～17:00</p>

※祝日、年末年始、8月6日を除きます。

相談の中で最も多い「不登校」の相談には、何らかの原因で、学校に行かない、行けないという相談や、学校には行けるが教室には入れない、相談室・保健室登校などの別室登校の相談も含まれています。「友達関係」の相談内容を聴くと、こどもの人間関係の複雑な側面を反映し、この問題からいじめ等の問題に発展することもあります。いじめ問題については、こどもにとつて、とても深刻な問題に発展することもあり、保護者としてどうすればいいのかわかり、不安なこともあります。いじめ問題だけでなく、その他、こどもたちに関する相談については、青少年総合相談センターで、相談員が皆様の心配されていることを聞かせていただき、どのようにすればいいのかを一緒に考えたり、状況によっては関係機関と連携しながらこどもの支援を考えます。また、相談者自身が、相談員に話をすることで、心配なできごとを振り返りながら問題を整理するなどの時間になればとも思っています。左に、各相談窓口の連絡先を記載していますので、相談がある時には、遠慮なくご連絡ください。

地区青少年健全育成

連絡協議会活動報告

西区天満・中広地区青少協会長 内藤 邦雄

天満・中広地区は、天満川と太田川放水路に挟まれた細長い地域になります。天満川を挟んで、対岸は中区という位置にあります。

ふれあい親子もちつき大会

当青少協では、毎年10月の天満小学校のPTAバザーのときに、ふれあいもちつき大会と称して、昔ながらのやり方で「もちつき」を行っています。

前日より「もち米」を水につけておき、「まき」や「かまど」「羽釜」「せいろ」等をつかってもち米を蒸し、「石臼」と「きね」でつきます。

最近では、「お餅」は店で買うもので、我が家では作ることがない子どもたちが多く、初めて見る餅つきの道具を前にして、子どもたちは興味津々で、つきあがってくるまで、周りでは大騒ぎです。

「かまど」の係は火を使いますので、青少協の役員が担当しますが、もち米をきねでつくのは、子どもたちとお父さん、学校の先生の担当です。最初はお父さんがついて、ある程度までねれてくると、いよいよ子どもたちの出番です。

二人一組になってつくわけですが、なにせ初めてのことでですから、なかなかタイミングが合わず、うまくいきません。周りで見ている子どもたちや親の声援を



うけて、だんだん呼吸もあつてきます。

「べったん、べったん」とリズムカルな音になってきたところでつきあがりです。

今度は女の子の出番です。出来上がったばかりのまだ熱いもちを小さく切つて、上手に餅とり粉の上で、どんどんきな粉餅にしています。

用意していた6うす分のもち米が、一時間半くらいの間に、バザーの参加者や子どもたちにまかれます。

自分がついたお餅は美味しいとみえて、おかわりする子どももたくさんいます。

これからも、継続は力なりで、親子、先生方、おじいちゃん、おばあちゃん、地域の方々と共に、続けていきたいと思っています。

学区子ども会

育成協議会活動報告

南区宇品学区子ども会指導員 住田 由美子

広島島の海の玄関、広島港がある宇品。皆様もご存知のとおり、私たちの町宇品は今、大きく生まれ変わりつつあります。南道路建設のための立ち退き、企業撤退による社宅の閉鎖。反対に埋め立てによって、新しくできた町。『宇品は便利になりましたね。』と、よく言われますが、新しくできた町と古くからある町、今まさに明と暗です。

どの地区も少子化問題で、子ども会の運営に支障をきたし始めていますが、さらに拍車をかけて、存続すら危うくなっている子ども会もあります。一方、新しい町もまだまだこれからということもあって、稼動していないのも実情です。色々な問題を抱えながら、まだまだ変わるこれからのことを思うと、なかなか打開策を見出せないまま、なんとかこの現状を乗り切ろうと、皆で一丸となって取り組んでいるところですよ。

『子どもの頃の思い出になる。』『良い経験になる。』という会長の思いに私たち執行部も共感し、今年度も球技大会等とは別に、様々なイベントに参加しました。例えば、南区子連の子ども文化祭のステージで『よさこいソーラン』を踊り、フラワーフェスティバルでは『折鶴みこし』を南区子連ジュニアリーダー一番星☆と合同で作り、パレードにも参加しました。また、宇品公民館の呼びかけで、電車通りの歩

道のゴミ拾いも行いました。

宇品学区独自の行事をご紹介します。

ちびっ子フットベースボール大会

得てして高学年中心になる子ども会行事。宇品では一年生～三年生の男子女子混合のフットベースボール大会を行っています。練習では、逆走したり、ボールがどこに転がろうと知らんぷり、かと思えば、皆で追いかけて取り合つてみたりと、どうなることかと心配しましたが、試合当日は必死になってボールを蹴つたり、追いかけてたりと、目が輝いています。今ではすっかり定着して、負けると悔し涙まで流している子もいます。試合の間には一年生だけ集めて、遊び感覚で行っています。勝ち負けはないのですが、たくさんの一年生と、応援の保護者の方々がコートに集まってくれます。

青少協・PTA・体協等地域の皆さんと協力して、これからも子ども達が健全に育っていけるよう活動を続けていきたいと思ひます。

